



# Japiu News Letter

## Happy Holidays!

もうすぐ12月。12月といえば世界中でクリスマスデコレーションが盛んな時期になります。今では世界6大陸の中で、クリスマス祝わない大陸はないというから驚きです。元々キリストの降誕を祝う日ですが、その前からあったお祭りや混ざり合い、各国で独自の文化が育まれています。

そのため、最近では「Merry Christmas!」より「Happy Holidays!」も多く聞こえるようになってきました。その理由として12月は他の宗教でもお祝いがあり、どんな宗教のお祝いにも対応可能で無宗教の人にも使える挨拶が必要となり、「Happy Holidays!」が使われるようになったのです。

それでは早速様々な国のクリスマスを見ていきましょう!

## 世界のクリスマスの過ごし方

### ~The United States~

最近のアメリカでは、多民族・他宗教の国だからその気遣いだからか「Happy Holidays」という文字の方が多く見かけます。そんなアメリカでも、クリスマス祝う家族にとってツリーだけは必須アイテムです。なぜならプレゼントを置くのはツリーの下だから。「ツリーハンティング」というモミの木を切りに行く伝統があり、クリスマスツリー農園へ買いに行くことがあります。24日夜にサンタクロースに感謝を込めて



クッキーやミルクを準備して子供たちは寝ます。翌朝クッキーが少し食べられているのを見てサンタクロースが来たことを喜ぶのです。

多くの家庭ではクリスマススイーツを用意します。よく見かけるのがジンジャーブレッドで組み立てる「お菓子の家(ジンジャーブレッドハウス)」。ジンジャーブレッドは祝祭時によく食べられる生姜入りクッキーです。また、食事ではロースターキー、ローストポーク、ハムなどにクランベリーソースをかけたものを食べます。



### ~The United Kingdom~

イギリスでは「Happy Christmas!」と言うのが一般的で、家族みんなで過ごす帰省の日という雰囲気があります。12月25日は祝日でほとんどのお店や公共交通機関が休業します。ただ翌日26日は「ボクシングデー」という英連邦独特の習慣があります。教会が貧しい人達のために寄付されたクリスマスプレゼントの箱(Box)を開ける日にちなみ、大バーゲンセールが始まります。



また、クリスマスディナーを食べる前には、クラッカーを鳴らす習慣があります。お皿に乗ったクリスマスクラッカーを隣の人と一緒に引っ張れば、楽しいクリスマスディナーの始まりです。中には紙の王冠やジョークなどが入っているのが定番ですが、チャームやコスメなどが入っている場合もあります。イギリスのクリスマススイーツといえば、「クリスマスプディング」。1ヶ月前から作り始めてクリスマスまで熟成させる、ドライフルーツ入りのお酒風味の強いケーキです。家族1人1人が材料を混ぜながらお願い事をするのです。食べる時はブランデーでフランベして温め直します。

イギリスではクリスマスパーティーのドレスコードが「クリスマスジャンパー」と指定されていることがよくあります。この時期に販売されるサンタやクリスマス柄のセーターを着るのですが、ダサ可愛いセーターを着て自分のダサ可愛さをアピールするのが定番です。

### ~Germany~

ドイツといえば、「クリスマスマーケット」! 11月末から12月24日までドイツ各地に市場が登場します。昔は、厳しい冬が来る前に「日用品を売買する最後の機会」だったそうですが、今はレーブクーヘン(ジンジャーブレッド)、スパイス入りの温かいグリューワインなどが売られている賑やかな市場です。ドイツでイブの日に来るのは、サンタクロースとサンタの召使い「クネヒト・ループレヒト」。彼は良い子にはご褒美を与え、悪い子には灰袋で叩くという恐ろしい存在。



ドイツのクリスマススイーツで、最も伝統的なのが「シュトレン」。古都ドレスデン発祥の、ブランデーに漬け込んだドライフルーツがたっぷり入り、粉砂糖が雪のようにまぶされているケーキです。クリスマスツリーの飾りつけは伝統ではクリスマスイブの日に行い1月6日まで飾られます。



"At Christmas, all roads lead home."  
-Marjorie Holmes(American columnist)

## ~France~

フランス語でクリスマスは「Noel(ノエル)」。「誕生」という意味です。伝統的にカトリックが強い国でもあります。フランスも、クリスマスツリーのこだわりは強く、本物のモミの木が郊外のスーパーやパリの道端でも売られています。クリスマスツリーは1月6日の「公現祭」というお祭りが終わると役目を終えます。



フランスのクリスマススイーツといえば「ビュッシュドノエル」。ビュッシュは木や丸太の意味で、「クリスマスの木」と呼ばれるフランスの伝統のお菓子です。丸太をイメージしたケーキと一緒にメレンゲを焼いたキノコ、雪を模したシュガーパウダーを添えるのが定番です。クリスマスの日に、暖炉の側に、ユールログ(クリスマスの丸太)という大きな薪を置く習慣があるので、丸太をイメージしたケーキにしているとか。大きな薪は「儀式やお祝いの象徴」の意味があるそうです。

## ~Australia~

オーストラリアがクリスマスを迎える時期は南半球のため、ちょうど夏真っ盛り。子供たちは夏休み中です。そのため、サンタクロースはソリの代わりにカヌーや船で登場することもあります。トナカイの代わりにカンガルーも登場します。クリスマスは家族と過ごすことが基本で、クリスマスツリーやリースの飾りつけをします。また、オーストラリア先住民時代からある、クリスマスブッシュを使いデコレーションもします。ニューサウスウェールズ州で見られる「ケラトペタルム・グンミフェルム」という植物は、クリスマスの頃にガクが赤からピンクに変わるためクリスマスの象徴として用いられます。オーストラリアではクリスマスディナーにはアウトドアでバーベキューが定番だそうです。

そして、クリスマスに欠かせないのが、「パブロヴァ」というお菓子。ロシアのパレエダンサーの名前から来ていますが、発祥はニュージーランドと言われています。低温で焼いたメレンゲに生クリームや季節のフルーツを乗せたもので、食感はサクッと軽く、ローカロリー。家庭ごとにそれぞれの味や見た目を楽しめます。



## ~Mexico~



メキシコは12月16日からクリスマスイブまでの9日間を「Posada(ポサダ)」と呼び、マリアとヨセフがベツレヘムへ旅したことを祝して、毎晩その旅を再現した行列やパーティーが行われます。パーティーではお菓子などを詰めた星形のピニャータ(くす玉)を壊し、みんなで出てくるお菓子を分け合います。またこの時期は、ポンチェというフルーツや黒砂糖を煮た温かくて甘い飲み物が振舞われます。クリスマスの代表的な料理は、バカラオ(塩だらのトマト煮込み)、パポ(ナッツやドライフルーツ、スパイス、ひき肉を入れた七面鳥のオープン焼き)、ロモ(豚ひれ肉を焼いたもの)、ロメリートス(おかひじきやジャガイモなどをチョコソースで煮込んだ料理)などたくさんあります。

クリスマスにポインセチアを飾るのはメキシコが発祥です。赤は「キリストの血」、緑は「永遠の象徴」、白は「純潔」を表すことから縁起の良い植物として「ノーチェ・ブエナ(聖夜)」と呼ぶようになりました。また葉の形がベツレヘムの星に似ていることからクリスマスを象徴する植物として定着し、メキシコからアメリカへ渡り世界に広がったそうです。

## ~Finland~



サンタクロースといえばフィンランド。北の街「ロバニエミ」に本物のサンタクロースは住んでいます。一年中クリスマスムードの街です。首都ヘルシンキでは11月末にクリスマスのオープニングセレモニーがあり、聖歌隊などのパフォーマンスや市長の挨拶、サンタクロースの挨拶があります。クリスマスは「Joulu(ヨウル)」といい、家族が集まって伝統的な食事を食べてお祝いします。11月末から12月はお友達と集まり、「Pikkujoulu(ピックヨウル)」=「小さなクリスマス」と呼ばれるパーティーをします。また、フィンランドではクリスマスイブにサウナでリラックスします。

伝統的なクリスマス料理は、メインディッシュで「ヨウルキンツク」という豚肉の大きな塊を軽く味付けした後、オープンで数時間低温調理するものがあります。他にもお米と牛乳、砂糖などを煮込んだ甘いミルク粥の「リーシプーロ」があります。お粥の中にアーモンドが入っていた人には、来年幸運が訪れると言われています。

